

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	茨城県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	常陸太田市立世矢中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	3	3	1	9	19
生徒数	68	95	111	3	277	

研究の概要

1. 研究主題

自ら学び自ら考える知力あふれる生徒の育成

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- 少人数指導の効果的な指導法の研究
- ・ 2, 3年生の数学(生徒の理解度に差が出やすい教科, 少人数指導で得られる個別指導の効果が期待できる教科であるため)
 - ・ 2, 3年生の理科(生徒の興味・関心が多様である教科, 個別指導で得られる助言指導の効果が期待できる教科であるため)
- 効果的な指導法の研究.....国語・社会・英語 全学年
- ・ 効果的な指導法の工夫
 - ・ 教材開発
 - ・ 評価カルテ

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 自ら学び自ら考える知力あふれる生徒の育成 研究の見通し(仮説)</p> <p>ア 一人一人を生かし, 伸ばす指導法の工夫をすれば, つまずきを防ぎ, 生徒は学びの力を持ち始めることができるだろう。</p> <p>イ 一人一人の実態に応じた教材を開発すれば, 学習意欲が高まり, 生徒は意欲的に学習に取り組むことができるだろう。</p> <p>ウ 一人一人の可能性を引き出す評価カルテの工夫をすれば, 生徒の成長を認め, 励ますことができ, 生徒は夢に向かうことができるだろう。</p> <p>エ 適正な教育課程を編成することにより, 研究の支障となるものが無くなり, 研究の効果が得やすくすることができるだろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>ア 少人数指導の効果がより期待できる学習内容の把握と教科の特性を生かした具体的な指導方法を数学, 理科の少人数指導の実践により研究をする。</p> <p>イ 数学・理科以外の教科における指導法の工夫を各教科ごとの実践により修正しながら研究する。</p> <p>ウ 国語, 社会, 数学, 理科, 外国語(英語)で生徒の実態に応じた教材を, 発展・補充等の問題を作成する研究をする。</p> <p>エ 生徒一人一人の夢を把握し, その実現に向けた夢実現プランを作成し, 生徒の努力の経過を認める個別カルテの研究をする。</p> <p>オ 研究全般の円滑な遂行のために適切な教育課程の編成の研究をする。</p>
--------	---

平成 15 年度	<p>テーマ 自ら学び自ら考える知力あふれる生徒の育成 研究の見通し（仮説）</p> <p>ア 各教科で、一人一人のカリキュラムを生かした指導法の工夫をすれば、生徒は自ら学ぶ力を伸ばすことができるだろう。</p> <p>イ 各教科で一人一人のカリキュラムを生かした教材開発をすれば、生徒の意欲をさらに伸ばすことができるだろう。</p> <p>ウ 各教科で一人一人のカリキュラムを生かした評価カルテを改善することによって、生徒は夢に向かって努力することができるだろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>ア 形成的評価を導入し、少人数指導、TT指導等に生かすことを各教科で工夫して研究する。</p> <p>イ 発展的教材、補充的教材の拡充と効果的な利用方法を各教科で工夫して研究する。</p> <p>ウ カリキュラム・評価を合体させた「一人一人のカリキュラム・個人カルテ」を作成し、形成的評価を研究する。</p> <p>昨年度の中間報告書の内容からの変更点とその理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 変更点 「研究内容・方法 ウ 到達度評価を導入し、夢実現カードの研究を各教科で工夫して研究する。」 ・ 変更理由 一人一人のカリキュラムと評価については、表裏一体であるとの観点から、これら2つを合体させた「一人一人のカリキュラム・個人カルテ」作成することが急務であることから変更した。
----------------	---

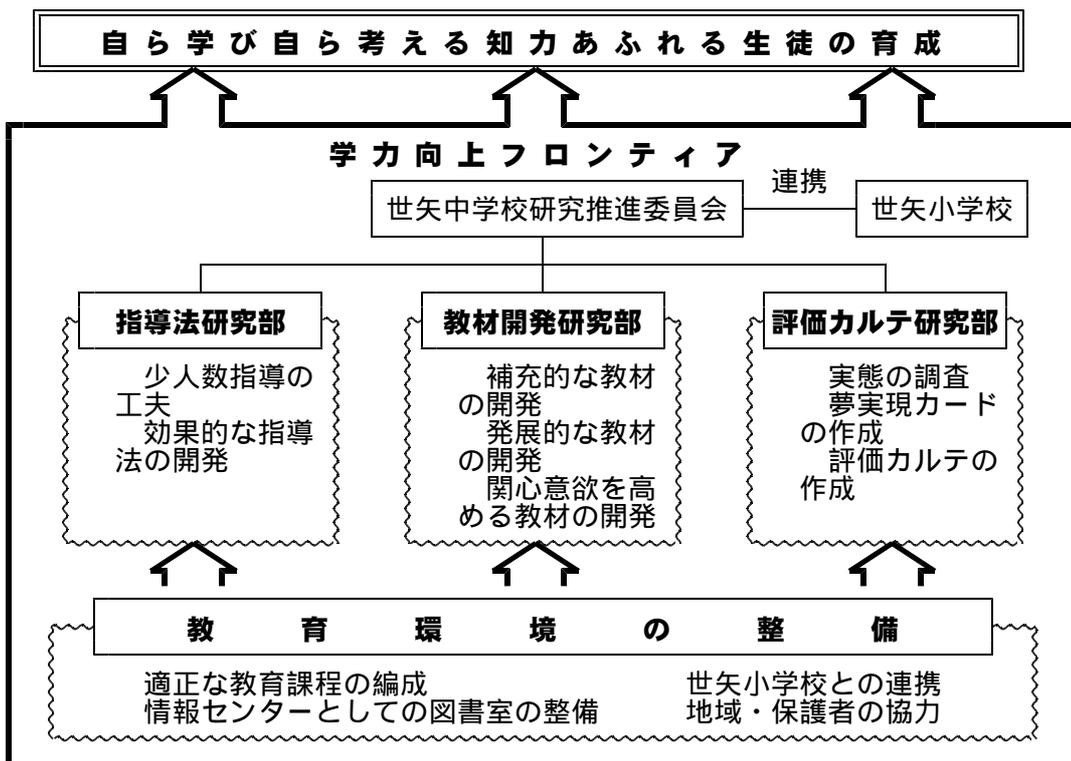
平成 16 年度	<p>テーマ 自ら学び自ら考える知力あふれる生徒の育成 研究の見通し（仮説）</p> <p>ア 各教科で研究した、指導法の工夫を整理統合し、効果的な指導法を見出していけば、生徒は自分に合った学びの力を伸ばし、自ら考える力を伸ばすことができるだろう。</p> <p>イ 各教科で研究した教材開発の整理統合をすれば、生徒の学びへの意欲を高めることができるだろう。</p> <p>ウ 各教科で研究した評価カルテを整理統合することで、生徒は夢に向かって具体的に努力し続けることができるだろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>ア 選択教科の指導法の工夫を各教科で研究する。</p> <p>イ 選択教科での発展的教材、補充的教材の開発と効果的な利用方法を研究する。</p> <p>ウ 選択教科の学習に役立つ、一人一人のカリキュラム・個人カルテの研究をする。</p> <p>昨年度の中間報告書の内容からの変更点とその理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 変更点 昨年度の中間報告では、研究の見通し、研究内容・方法とも「整理統合する」ということであったが、16年度は、研究内容・方法は、「選択教科」についての指導法、教材開発、カリキュラム・評価カルテの研究をすることに変更した。 ・ 変更理由 14年度、15年度の研究で必須教科（国語・社会・理科・数学・外国語）の研究を続けてきた。その成果を踏襲、拡充するために選択教科についての指導法、教材開発、カリキュラム・評価カルテの研究をする必要性を感じたことから変更した。
----------------	--

(3) 研究推進体制

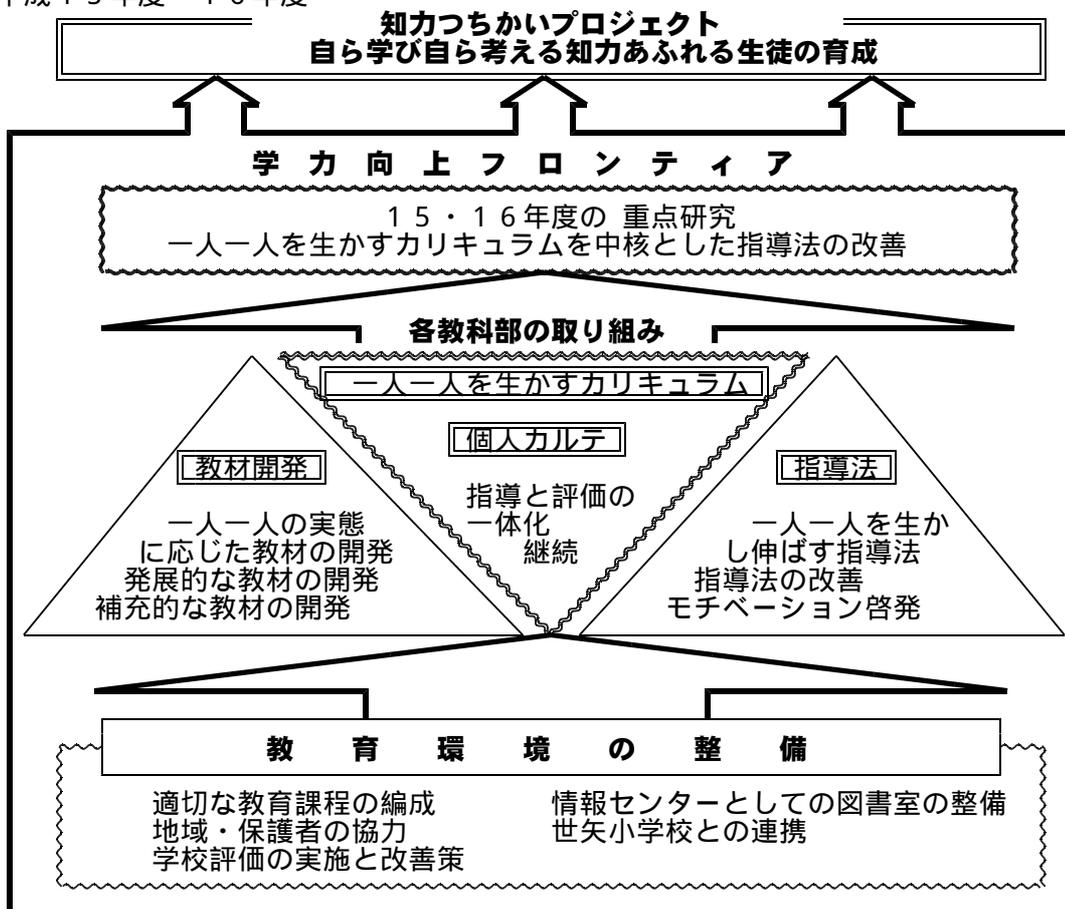
昨年度の中間報告書の内容からの変更点とその理由

- ・ 昨年度の提出した平成15・16年度の研究推進体制の「一人一人のカリキュラムと評価」については、表裏一体であるとの観点から、これら2つを合体させた「一人一人のカリキュラム・個人カルテ」作成することが急務であることから変更した。

平成14年度



平成15年度・16年度



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

研究成果

- 世矢小学校との連携
算数・数学科の連携として小・中学校を通じた計算分野の到達度目標を設定した。
理科担当教師による交流指導... 10月7日(火), 23日(木)実施
小学校5年生の理科「花粉の観察」の学習への中学校教師1名, 3年選択理科を受けている生徒数名による指導協力を行った。
- 一人一人を生かすカリキュラム・個人カルテ
教科による特性を鑑み, 教科部ごとに原案を一部修正して作成した。
科個人評価カルテ(原案) 年 組 番氏名

単元名	
-----	--

夢・願い	観点別評価		事前調査の記録	認められた変容
-----	関心意欲			
-----	考え方			
めあて(カリキュラム)	表現処理			
-----	知識理解			

日	気になる点	支援の視点・具体策	認められる変容

ア 「一人一人のカリキュラム」に関わるもの

生徒の夢を実現すべく, 常に意識できるように欄を設けた。
生徒の向上意識の高揚を図るとともに, 教師が個別的な指導を心がける基になるものなので, 単元における個別の「めあて」の欄を設けた。
「事前調査の記録」は, 事前テスト, 前単元の実態等を記入し支援の具体策の参考とするため設けた。
「気になる点」の欄は, 生徒の戸惑い, つまずきを見つけ, 支援計画を作成するために設けた。
支援の視点・具体策が「一人一人のカリキュラム」の中核となるので, 生徒ごとの効果的な支援策をいろいろ試して, 生徒にとってよいものを見つけることができるようにする。

イ 評価カルテに関わるもの

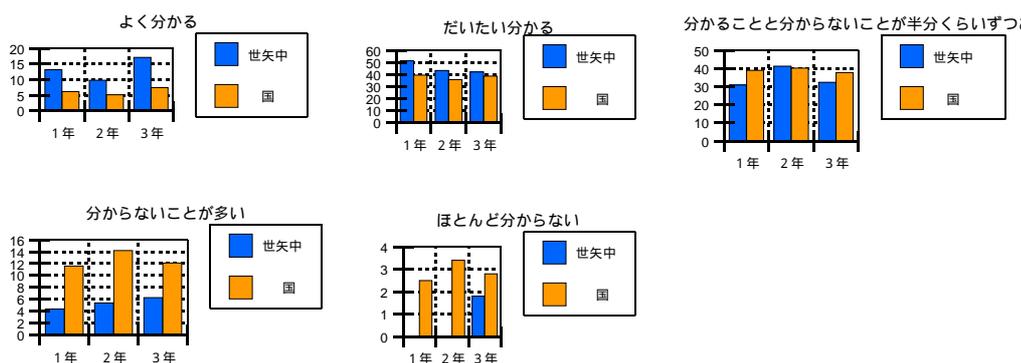
「観点別の評価」の欄を設け, 単元ごとの評価を行う。
「認められた変容」に記入できるよう積極的に支援を行うようにするとともに, 生徒の小さな変容を見逃さない教育のプロとしての目を持つようにする。

経過観察を簡単に記入し, 最後の評価も記入する。
煩雑にならぬこと, 継続できることを目標に取り組んできた。改善の余地は残されてはいると思うが, 参考になることは間違いないと感じている。
今日はここまで伸びたから, 次はこの支援でさらに伸ばそう。
この支援ではなく, もっと分かりやすい支援を用意しなければならない。
生徒の伸びやつまずきを見つめることで, 教師の「授業の創意工夫」への意欲が増した。

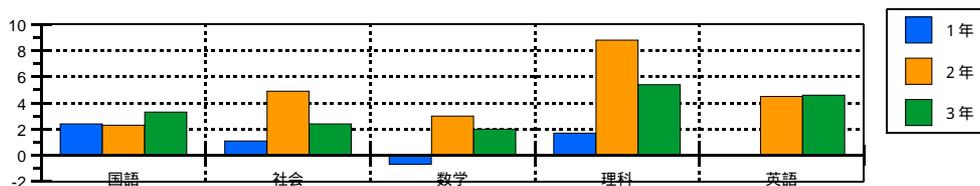
- 指導法の改善(学習に関するアンケート調査の本校と国との比較)
設問1の小設問18(肯定的回答を求めるもの)のうち, 世矢中のデータが国のデータを, 上まわったのは, 設問18中16(2つは, 僅かに下回った)であった。

特に上回ったもの	「勉強が好きだ」 (+ 12.2%) 「勉強は大切だ」 (+ 9.5%) 「勉強すれば、自分の力で答えを見つけられるようになる」 (+ 9.7%)
僅かに下回ったもの	「勉強をすれば、お父さんとお母さんがほめてくれる」 (- 0.6%) 「勉強すれば、先生がほめてくれる」 (- 2.6%)

勉強の様子具体的な内容を問う設問2の小設問10のうち、本校の指導法の改善の評価の一つの目安となる問いがあったので、特にグラフで示す。
「学校の授業はどの程度分かりますか」



・ 平成15年度茨城県学力診断のためのテストの平均正答率と世矢中の比較



・ 教材開発

少人数指導を中心にして取り組んだ数学科では、コース内の多様な生徒の実態と願いに対応するために、プリント教材を数多く用意した。確かな手応えを感じている。

継続的な取組により、生徒の学習意欲の向上が見られる。また、少人数指導の充実により、特に理科では学力の向上が見られる。指導法の改善により、生徒にとっての「分かる授業」が多くなっている。

2. 今後の課題

一人一人を生かすカリキュラム・個人カルテの更なる研究
作成したものを基に、効果・継続をねらい、実践の中から工夫を見出す。
指導法の更なる研究
必須教科、選択教科等、更に「分かる授業」づくりのために、指導法の改善をする。
教材開発の更なる研究
選択教科の効果的な運用のため、教材の開発をする。
フロンティアティーチャーの更なる活用
常陸太田教育研究所での「研究協議」による啓発活動に努める。

学力把握のための学校としての取組

県「学力診断のためのテスト」	(5教科 年1回 4月実施)
中間テスト	(5教科 年2回 5月実施, 10月実施)
期末テスト	(5教科 年2回 6月実施, 11月実施)
学年末テスト	(5教科 年1回 2月実施)
基礎力テスト	(国・数・英 年3回実施 期日については未定)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

P T A による	支援委員会主催「有識者による講演会」..... 10月25日(土)
講師	富山大学紀教育学部助教授 黒羽 正見 先生
場所	茨城県常陸太田市立世矢中学校
テーマ	「みんなで子育て - 学校・家庭・地域で考える学力 - 」
対象	世矢小中学校 P T A, 常陸太田市・金砂郷町内小中学校 P T A
広報活動	世矢小中学校の取り組みについての経過報告も行った。
研究会の実施	
日時	平成15年11月12日(木) 13時30分~
場所	茨城県常陸太田市立世矢中学校
テーマ	自ら学び自ら考える知力あふれる生徒の育成
対象	茨城県県北地区学力向上推進協議会員 本校 P T A 役員 茨城県県北教育事務所管内の各中学校の教職員
常陸太田教育研究所(教職員の自主研修任意団体)での啓発活動	
フロンティアT...	「研究協議(8月11日, 参加者約100名)」
理科部教師「研究協議(12月6日, 参加者約80名)」
常陸太田地区では、同様の実践を行う学校が増えてきている。	

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4~6学級
 7~9学級 10~12学級
 13~15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無